

分担研究報告書

診療水準向上：高齢 CKD 患者、透析・移植後患者の QOL 維持向上

研究分担者 酒井 謙 東邦大学 教授
祖父江 理 香川大学 講師

研究要旨

【目的】

高齢CKD患者においては、2025年に3学会（日本緩和医療学会、日本腎臓学会、日本透析医学会）による腎不全患者の緩和ケアガイドランスが発表される。緩和ケアの議論が国民的感心を以て進んでおり、関係資料の刷新も必要となった。また診療報酬は、緩和ケアのみならず、両立支援にもその方向性が示され、移植者アンケートの就労情報の実態を通してその実装を計画した。

【方法】

2024年度においては、移植者の就労状況について就労支援に繋ぐ資料作成を目指した。透析医会においても維持血液透析患者のACPが調査されており、移植患者調査においても同様にACPの調査を行った。この和文冊子体（移植者アンケート調査結果）は2025年3月に刊行された。また2025年度においては、台湾国立大学「腎臓病患者の終末期における緩和ケアガイドライン」の和訳第3版作成を行った。

【発表経過】

台湾国立大学作成のガイドラインの和訳第3版作成においては、令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（腎疾患政策研究事業）「腎疾患対策検討会報告書に基づく対策の進捗管理および新たな対策の提言に資するエビデンス構築」（研究代表者 柏原直樹）の研究費にて制作した。他方、高齢者CKD診療におけるCKMを含めた論点整理を行い、3学会における、腎不全患者の緩和ケアガイドランスの提言作成に加わった。また国際腎臓学会（2026年3月開催 横浜）にて、台湾国立大学の末期腎不全緩和ケアガイドライン作成者との意見交換を得た。

参加者（3月30日 於東邦大学）

1) Dr. Mei-Ching Yu
Division of Pediatric Nephrology,
Chang Gung Memorial Hospital-Linko Medical Center
and Chang Gung University, Taiwan.

2) Hung-Bin Tsai, MD, PhD, EMBA
Taiwan Organ Sharing Registry

3) Chia Ter Chao MD PHD FASN
National Taiwan University hospital

腎センター 村松真樹 濱崎祐子 酒井 謙 高上紀之

後援： 国際交流センター（東邦大学医学部）

議題： 腎移植生体ドナーの透析導入（腎臓摘出後）（台湾）
台湾日本の腎不全の緩和医療について（台湾）（日本）

【結果】

2026年には診療報酬改定も予定され、腎不全の緩和ケアの議論の活発化を得た。

【考察】

緩和ケアの議論が国民的感心を以て進んでおり、腎不全の緩和ケアの議論が進んだが、本邦の良好な透析療法の成績において、CKMの考え方には欧米との隔たりがまだ存在する。

A. 研究目的

2025 年は両立支援（中川班）においても、診療報酬加点が予想され、移植者アンケートの結果（就労状況）はその政策に資するものとなる。また 2025 年に 3 学会（日本緩和医療学会、日本腎臓学会、日本透析医学会）による腎不全患者の緩和ケアガイドラインが発表される。本年度は、両立支援に加え、高齢 CKD 患者の QOL ADL ACP CKM において、活動を行う。

B. 研究方法

2024 年度は移植患者のその後の就労、就業、結婚、育児、老後、ACP などの QOL 調査「全国腎移植者（待機者）の医療・福祉ニーズに関する調査」のアンケートの結果が得られ、引き続き周知、報告を行った。2025 年度は、3 学会による腎不全患者の緩和ケアガイドラインも発表され、台湾大学医学部付属病院作成の「腎臓病患者の終末期における緩和ケアガイドライン」の和訳第 3 版作成を行った。

（倫理面への配慮）

「末期腎臓病人安寧緩和ガイドライン」（国立台湾大学）の翻訳の印刷配賦の可否については 既に柏原直樹先生と国立台湾大学（洪冠予教授）との調印済である。

C. 研究結果

台湾における、末期腎不全の緩和ケアでは、CKM において一時的透析が含まれる。現在本邦でも台湾のように CKM の経過で一時的透析（time limited dialysis）を含めるか否か、議論が始まった。同様に CKM の定義、KSC（腎臓支持療法）の位置づけも議論が始まった。

D. 考察

2026 年には診療報酬改定も予定され、両立支援と腎不全の緩和ケアの議論の活発化を得た。なお本邦の CKM の考え方、KSC の普及には、まだ欧米との隔りがある。

E. 結論

緩和ケアの議論が国民的感心を以て進んでおり、腎不全の緩和ケアの議論が進んだ。腎不全患者の両

立支援においては、移植者アンケート（就労状態）が、その資料として、大いに活用された。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 日本緩和医療学会、日本腎臓学会、日本透析医学会編 「腎不全患者の緩和ケアガイドライン」 2025年9月（各学会のHPで発表公開された）大西弘夏、酒井謙： 高齢者のCKDのACPと腎代替療法選択. 日本老年医学会雑誌 62 (2) : 145 -149 , 2025
- 2) 祖父江理, 中井真一, 中川直樹, 酒井謙 腎移植患者における就労状況・生活状況に関する実態調査 日本臨床腎移植学会雑誌 13(2): 121-127, 2025
- 3) 酒井謙、小坂志保： わが国の慢性腎不全医療とCKM. 臨床透析 42 (1) : 41 -50 , 2
- 4) Shibagaki Y, Sofue T, Kawarazaki H, et al. Japanese Patients' Perceptions of Shared Decision-Making in Renal Replacement Therapy Kidney Int Rep. 2025;10(8):2778-2788.
- 5) Designing clinical kidney research using real-world data: research questions, data sources, and analytical skills. Sugawara Y, Iwagami M, Nagasu H, Miyamoto Y, Oshima M, Kuwabara T, Sofue T, Nakagawa N. Clin Exp Nephrol. 2026 Feb;30(2):183-197.

2. 学会発表

- 1) 祖父江理, 濱崎 祐子, 中川直樹, 中井真一, 酒井謙 腎移植患者における就労状況・生活状況に関する実態調査 第58回日本臨床腎移植学会総会 2025/2 広島市
- 2) 祖父江理 腎代替療法選択の現況 SY20-2 日本の透析患者数の推移について再考する：2023年度統計調査結果を踏まえて（JSN/JSOT共同事業企画運営委員会企画）第68回日本腎臓学会学術総会 2025/6 横浜市
- 3) 祖父江理 健診から始まるCKD対策 ～療養指導と病診連携～第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会 2025-8 - 22京都市
- 4) 祖父江理 慢性腎臓病における病診連携の未来 第55回日本腎臓学会西部学術大会 2025-10-11 奈良市

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし